

日曜日に特定健診を実施 がん検診と同時に受診も

日曜日に特定健診とがん検診(胃・大腸・肺・子宮・乳)を同時に受診できる日曜健診を実施します。

▶実施日 11月18日(日)。受付時間は実施日の1週間前をめどに案内書で通知▶場所 市役所会議室他▶定員 120人程度(申込順)▶囲 9月4日~10月12日に健康づくり推進課☎77・1133、77・1111(検診申し込みの旨を伝えてください)か直接▶その他 案内書記載の持ち物や注意事項など確認要。詳しくは保存版あやせ健康だよりか市国民健康保険特定健康診査受診の案内参照

囲保険年金課☎70・5617か健康づくり推進課。

項目	圍	対象者(年齢は来年3月31日現在)
特定健診	2000円	40~74歳で受診時に市国民健康保険に加入中の方
胃(バリウム検査)	1100円	市内在住で40歳以上の方
大腸	500円	
肺	200円	
肺	600円	がん検診のみ
子宮(器具挿入の細胞診)	900円	市内在住の20歳以上で偶数年齢の女性
乳	2400円	視触診とマンモグラフィー2方向
	1900円	視触診とマンモグラフィー1方向
乳エコー(超音波)	900円	市内在住で30~39歳の女性

※時間の指定はできません。申し込み開始日は電話がつながりにくいことがあります。各項目につき6月~来年3月に1回の受診です。大腸がん検診は生理中の受診ができません。マンモグラフィーは、授乳中、生理前1週間~終了に受診できないほか、断乳後約6か月は受診できない場合があります。乳がん検診は、ペースメーカー使用者、乳房内に注入物がある方の受診ができません。検診車での検診時のみ未就学児対象の保育があります(事前相談要)。混雑が予想されるので当日は公共交通機関を利用してください

救急業務・医療に理解を

9月9日は「救急の日」

救急業務・医療に対して理解と認識を深め、救急医

療関係者の意識を高めるため、9月9日は「救急の日」

と定められました。この日を含む日(土曜日)の1週間を「救急医療週間」として

必要とする人のために救急車の利用は適正に



救急車は、けがや病気で緊急に医療機関へ搬送しなければならぬ人のためのもので、昨年の救急出動件数は3974件で、昨年比116件減、搬送人員は3718人で一昨年に比148人減となりました。搬送に至らなかった件数は

287件ありました。

緊急でない人が利用すると、本当に必要とする人の元へ、遠くの消防署から出動することになります。現場への到着が遅れるだけでなく、全ての救急車が出動してしまつと、救われるべき命が救えなくなる可能性があります。



防災マップで浸水想定区域を確認しましょう

大雨や台風により、目久尻川や蓼川、比留川が氾濫した場合、深いところでは5m近く浸水することが想定される地区があります。

市防災マップ(水害編)では河川が増水し、氾濫した場合の「浸水の範囲」と「浸水の深さ」を確認できます。自宅にある同マップや、市ホームページで、改めて浸水区域や避難所を確認し、災害に備えましょう。

自宅に同マップがない場合は危機管理課に問い合わせてください。囲同課☎70・5641。

囲同課☎70・5641。

公共サービスに市民の力を

行政提案型協働事業

受託団体を募集

市民協働の魅力あるまちづくりを推進するため、来

年度の行政提案型協働事業を引き受ける団体を募集します。

市民活動団体などと市が協働で行う事業のうち、市があらかじめ内容を設定したもので、協働先を公募により決定します。

囲市民協働課☎70・5640。

■対象事業 表のとおり。

詳細は市ホームページ参照

■応募団体の要件 次の全ての要件を満たす団体

2人以上で構成されている

▼運営に関する規約や会則があり、予算・決算を適正に行っている

▼営利を目的と

しない

■囲 9月3日~21日に団体名と代表者氏名、連絡先を市民協働課へ直接

■申し込み後の予定 9月25日~10月12日、担当課との協議。10月23日庁内選考会を実施し、採否を決定



緊急時でも適切に対応できる医療体制を整備

けがや病気などで緊急の場合、いつでも、どこでも適切な治療が受けられるように、医療機関の診療時間以外でも受けられる、症状

の軽い人への応急処置や重傷者の入院治療などの救急医療体制を整えています。詳しくは3月に全戸配布した保存版あやせ健康だよりを見てください。囲健康づくり推進課☎77・1133。

テーマ	事業概要	提案課	区分	事業費総額	市負担	実施期間
福祉支援団体交流室運営事業	保健福祉プラザ内福祉支援団体交流室の運営と人材育成事業の実施など	福祉総務課	新規	3223千円	事業費全額	平成31年4月~平成33年3月(2年間)